

第2問 微分法・積分法

$$f(x) = x^3 - x.$$

(1) $f(x)$ の導関数は

$$f'(x) = \boxed{3}x^2 - \boxed{1}$$

$$= 3\left(x + \frac{1}{\sqrt{3}}\right)\left(x - \frac{1}{\sqrt{3}}\right)$$

であるから、 $f(x)$ の増減は次の表ようになる。

x	...	$-\frac{1}{\sqrt{3}}$	...	$\frac{1}{\sqrt{3}}$	...
$f'(x)$	+	0	-	0	+
$f(x)$	↗	$\frac{2\sqrt{3}}{9}$	↘	$-\frac{2\sqrt{3}}{9}$	↗

よって、 $f(x)$ は

$$x = \frac{\boxed{-1}}{\boxed{3}}\sqrt{\boxed{3}} \text{ において極大値 } \frac{\boxed{2}}{\boxed{9}}\sqrt{\boxed{3}}$$

$$x = \frac{\sqrt{\boxed{3}}}{\boxed{3}} \text{ において極小値 } \frac{\boxed{-2}}{\boxed{9}}\sqrt{\boxed{3}}$$

をとる。

(2) $C_1: y = f(x)$ 上の点 $A(1, f(1))$ における C_1 の接線 ℓ の方程式は

$$y = f'(1)(x-1) + f(1)$$

すなわち

$$y = 2(x-1) + 0$$

$$y = \boxed{2}x - \boxed{2}$$

である。

$C_2: y = g(x)$ が点 $A(1, 0)$ において直線 ℓ に接するとき

$$g(1) = 0, \quad g'(1) = 2$$

すなわち

$$1 + p + q = 0, \quad 2 + p = 2$$

が成り立つ。これより

$$p = \boxed{0}, \quad q = -\boxed{1}$$

である。よって $g(x) = x^2 - 1$ である。

(3) 曲線 C_1 と放物線 C_2 の点 A 以外の共有点 B の x 座標を求める。

$$f(x) - g(x) = 0$$

より

$$x^3 - x^2 - x + 1 = 0$$

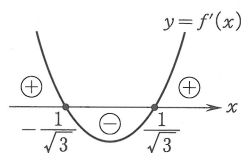
$$(x-1)^2(x+1) = 0$$

$$x = 1, -1.$$

導関数

$$(x^n)' = nx^{n-1} \quad (n=1, 2, 3, \dots),$$

$$(c)' = 0 \quad (c \text{ は定数}).$$



$f'(x)$ の符号は $y = f'(x)$ のグラフを描くとわかりやすい。

接線の方程式

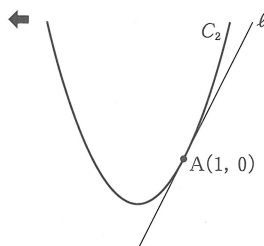
曲線 $y = f(x)$ 上の点 $(t, f(t))$ における曲線の接線の傾きは

$$f'(t)$$

であり、接線の方程式は

$$y = f'(t)(x-t) + f(t).$$

$$g(x) = x^2 + px + q, \quad g'(x) = 2x + p.$$



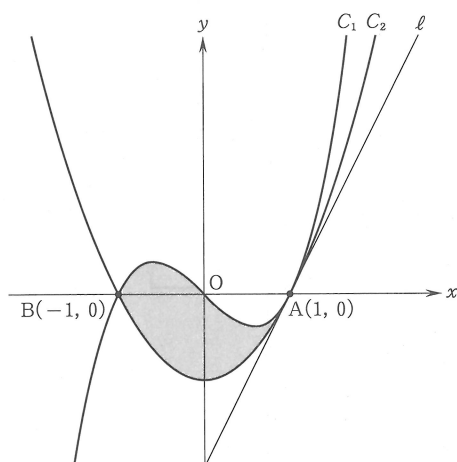
この x の方程式の実数解が C_1 と C_2 の共有点の x 座標である。

C_1, C_2 は $(1, 0)$ において共通接線をもつので、左の方程式は $x=1$ を重解にもつ。

これより点Bの x 座標は -1 である。また、Bは C_2 上にあるから、Bの y 座標は $(-1)^2-1=0$ である。よって、Bの座標は

$$\left(\boxed{-1}, \boxed{0} \right)$$

である。



また、 $-1 \leq x \leq 1$ において

$$f(x) - g(x) = (x-1)^2(x+1) \geq 0$$

であるから、曲線 C_1 と放物線 C_2 で囲まれた図形の面積は

$$\begin{aligned} & \int_{-1}^1 \{f(x) - g(x)\} dx \\ &= \int_{-1}^1 (x^3 - x^2 - x + 1) dx \\ &= \left[\frac{1}{4}x^4 - \frac{1}{3}x^3 - \frac{1}{2}x^2 + x \right]_{-1}^1 \\ &= \left(\frac{1}{4} - \frac{1}{3} - \frac{1}{2} + 1 \right) - \left(\frac{1}{4} + \frac{1}{3} - \frac{1}{2} - 1 \right) \\ &= \frac{\boxed{4}}{\boxed{3}} \end{aligned}$$

である。

(4) $-1 < t < 0$ のとき、直線PQと x 軸の交点をHとする。

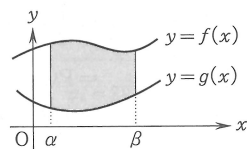
四角形APBQの面積を S とする。

$$\leftarrow C_2: y = x^2 - 1.$$

面積

区間 $a \leq x \leq b$ においてつねに $g(x) \leq f(x)$ ならば、2曲線 $y=f(x)$, $y=g(x)$ および2直線 $x=a$, $x=b$ で囲まれた図形の面積 S は

$$S = \int_a^b \{f(x) - g(x)\} dx.$$



$\leftarrow$

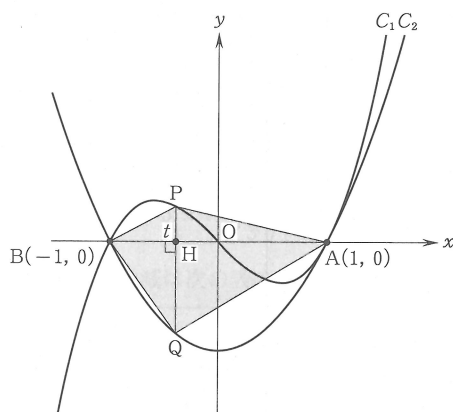
積分

$$\int x^n dx = \frac{1}{n+1} x^{n+1} + C$$

($n=0, 1, 2, \dots$, C は積分定数) であり、 $f(x)$ の原始関数の一つを $F(x)$ とすると

$$\begin{aligned} \int_a^b f(x) dx &= [F(x)]_a^b \\ &= F(b) - F(a). \end{aligned}$$

$\leftarrow$



$$\begin{aligned}
 S &= \triangle APQ + \triangle BPQ \\
 &= \frac{1}{2} \cdot PQ \cdot AH + \frac{1}{2} \cdot PQ \cdot BH \\
 &= \frac{1}{2} \cdot PQ \cdot (AH + BH) \\
 &= \frac{1}{2} \cdot PQ \cdot AB \\
 &= \frac{1}{2} \cdot PQ \cdot 2 \\
 &= PQ \\
 &= f(t) - g(t) \\
 &= t^3 - t^2 - t + 1
 \end{aligned}$$

である。S を t で微分すると

$$\begin{aligned}
 S' &= 3t^2 - 2t - 1 \\
 &= (3t + 1)(t - 1)
 \end{aligned}$$

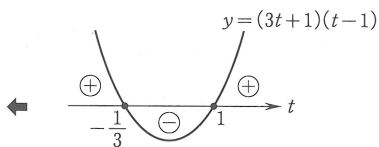
であるから、 $-1 < t < 0$ における S の増減は次の表のようになる。

t	(-1)	$\dots$	$-\frac{1}{3}$	$\dots$	(0)
S'		$+$	0	$-$	
S		$\nearrow$	$\frac{32}{27}$	$\searrow$	

よって、 S は $t = \frac{-1}{3}$ で最大値 $\frac{32}{27}$ をとることがわ

かる。

← $-1 < t < 0$ において
 $f(t) - g(t) = (t-1)^2(t+1) > 0$.



← $t = -\frac{1}{3}$ のとき
 $S = \left(-\frac{1}{3} - 1\right)^2 \left(-\frac{1}{3} + 1\right) = \frac{32}{27}$.